

全般 3か月予報
(9月から11月までの天候見通し)

平成22年8月25日
気象庁 地球環境・海洋部発表

＜予想される向こう3か月の天候＞

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。
この期間の平均気温は、全国で高い確率50％です。3か月降水量は、沖縄・奄美で平年並または多い確率ともに40％です。

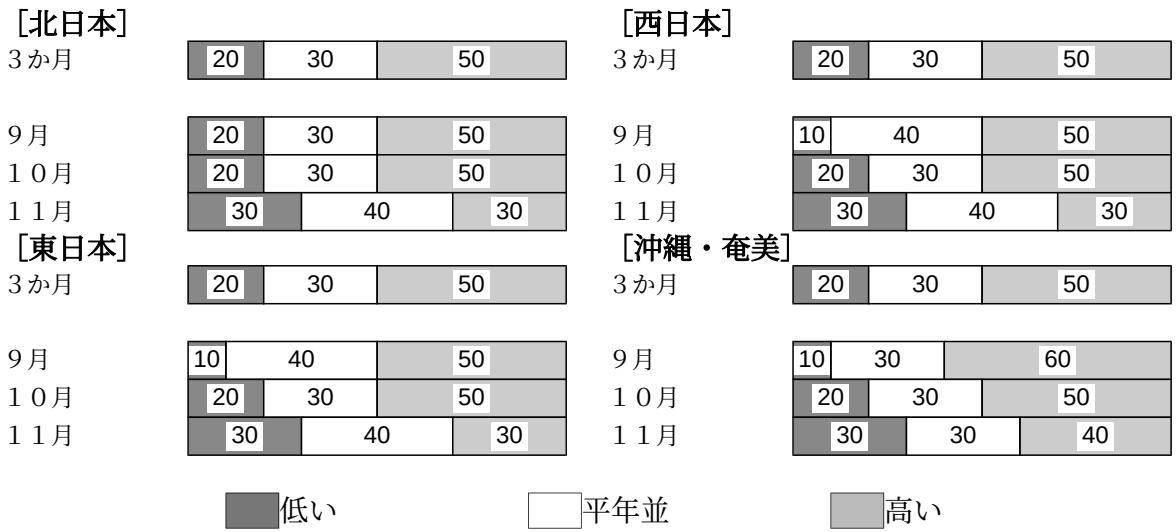
9月 天気は、北日本と沖縄・奄美は平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。東・西日本は数日の周期で変わる見込みです。全国的に残暑が厳しいでしょう。気温は、沖縄・奄美で高い確率60％のほかは、高い確率50％です。降水量は、沖縄・奄美で多い確率50％です。

10月 天気は、全国的に数日の周期で変わるでしょう。北・東・西日本太平洋側と沖縄・奄美は、平年に比べ曇りや雨の日が多い見込みです。気温は、全国で高い確率50％です。

11月 天気は、全国的に数日の周期で変わるでしょう。北・東日本日本海側と沖縄・奄美は、平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。

＜向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率（％）＞

＜＜気温＞＞



<<降水量>>

[北日本日本海側]

3か月	30	30	40
-----	----	----	----

9月	30	30	40
10月	30	40	30
11月	30	40	30

[北日本太平洋側]

3か月	30	30	40
-----	----	----	----

9月	30	30	40
10月	30	30	40
11月	30	40	30

[東日本日本海側]

3か月	30	40	30
-----	----	----	----

9月	30	40	30
10月	30	40	30
11月	30	40	30

[東日本太平洋側]

3か月	30	40	30
-----	----	----	----

9月	30	40	30
10月	30	30	40
11月	30	40	30

[西日本日本海側]

3か月	30	40	30
-----	----	----	----

9月	30	40	30
10月	30	40	30
11月	30	40	30

[西日本太平洋側]

3か月	30	30	40
-----	----	----	----

9月	30	40	30
10月	30	30	40
11月	30	40	30

[沖縄・奄美]

3か月	20	40	40
-----	----	----	----

9月	20	30	50
10月	30	30	40
11月	30	40	30

少ない

平年並

多い

<次回発表予定等>

1か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は8月27日

3か月予報：9月22日（水） 14時

寒候期予報：9月22日（水） 14時

9月の予報については、新しい資料による次回以降の1か月予報を適宜ご利用ください。

＜参考資料（平年並の範囲）＞

（１）1971～2000年のデータに基づいたこの予報期間の地域平均の気温、降水量の平年差（比）の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差(°C)		降水量平年比(%)
北日本	-0.3～+0.4	日本海側 太平洋側	96～107 90～111
東日本	-0.3～+0.3	日本海側 太平洋側	88～112 89～105
西日本	-0.2～+0.2	日本海側 太平洋側	88～114 86～111
沖縄・奄美	-0.2～+0.1		82～107

（２）この予報期間の地域平均気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	9月	10月	11月
北日本	-0.3～+0.1	-0.5～+0.4	-0.4～+0.6
東日本	-0.5～+0.3	-0.5～+0.3	-0.4～+0.6
西日本	-0.4～+0.5	-0.4～+0.4	-0.4～+0.7
沖縄・奄美	-0.1～+0.2	-0.4～+0.2	-0.5～+0.5

（３）この予報期間の地域平均降水量平年比の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	9月	10月	11月
北日本日本海側	88～107	99～111	94～108
北日本太平洋側	90～111	78～110	69～112
東日本日本海側	80～117	91～109	84～112
東日本太平洋側	76～124	73～109	62～113
西日本日本海側	80～111	74～126	85～111
西日本太平洋側	74～114	77～104	72～116
沖縄・奄美	84～117	66～108	78～119

＜参考資料（利用上の注意）＞

（１）気温（降水量）等は、「低い（少ない）」「平年並」「高い（多い）」の３つの階級で予報します。階級の幅は、1971～2000年の30年間における各階級の出現率が等分（それぞれ33％）となるように決めてあります（気候的出現率と呼びます）。

（２）予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10％以下や60％以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度（30％、40％）の確率しか付けられません。

（３）晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い（少ない）場合は「平年に比べて多い（少ない）」、また平年の日数と同程度に多い（少ない）場合には「平年と同様に多い（少ない）」と表現します。なお、単に多い（少ない）と表現した場合には対象期間の2分の1より多い（少ない）ことを意味します。